

【臨床・研究】

根治術後7ヶ月で特異な吻合部
再発を来した上行結腸癌の1例の 野 村 村 村 肇 肇 肇 肇
たけ ばやし まさ たか
竹 林 正 孝

キーワード：結腸癌，手縫い吻合，吻合部再発

要 旨

結腸癌手術において手縫い吻合後の吻合部再発は稀だが，結腸癌の術後に特異な吻合部再発を来した1例を経験した。上行結腸癌（80歳女性）に対して結腸右半切除術を行い，手縫い端々吻合を施行した。癌は中分化管状腺癌，印環細胞癌，低分化腺癌，乳頭腺癌，粘液癌の混在であった。術後7ヶ月で10cmを超える吻合部再発を来したため再手術を施行した。再発巣は，原発巣の低分化腺癌と同様の組織のみで構成されていた。血液が維持されるはずの腫瘍辺縁が広範に壊死しており特異であったが，増殖能力の高い癌細胞が急速に増殖したため表層の虚血が生じたと考えられた。非常に悪性度の高い低分化腺癌であると思われたが，再切除後は別の転移再発は来さず無再発生存中で興味深い症例であった。結腸癌手縫い吻合後にこのような特異な吻合部再発を来した報告は検索しえなかったため考察を加えて報告する。

はじめに

結腸癌手術に関しては，特に手縫い吻合における吻合部再発は稀である¹⁻⁵⁾。今回我々は，上行結腸癌の手縫い吻合による根治術後7ヶ月で吻合部に10cmを超える特異な再発を来した1例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者：80歳，女性。
主訴：下痢。
家族歴：特記事項なし。
既往歴：陳旧性脳梗塞，腰椎圧迫骨折。
アレルギー：なし。
現病歴：下痢に対して近医で入院加療中に著明な貧血を指摘され，精査加療目的に当院へ転院となった。
初診時理学的所見：身長134cm，体重35kg。バイタルサインは正常範囲内であった。眼瞼結膜は白

Hajime NOMURA et al.

済生会江津総合病院外科

連絡先：〒695-0011 島根県江津市江津町1016-37

済生会江津総合病院外科